

文化財としての建築: 建築デザインの現在／過去／未来

環境人間学部 水上 優

キーワード

世界遺産、文化財保存活用、地域活性化、公共建築、建築論・歴史・意匠

研究概要

建築論・建築史・建築意匠の研究を行っている。とりわけフランク・ロイド・ライト、ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デルローエ、ルイス・カーン等西洋近代の建築家の作品について、思索と制作の関わりあい注目して研究している。同時に、これからの建築(住宅建築・公共建築)に求められる社会的意義の研究と、すでにある建築作品(海外・国内)の現況調査に基づく今後の保存・活用方策の研究を行っている。2019年、在米ライト建築8件が世界文化遺産に登録された。その際、今後の追加登録を目指す建物6件も併記され、芦屋市にある国重要文化財・旧山邑家住宅(現ヨドコウ迎賓館)が含まれている。2016年から約2年間、当該建物の保存修理委員であったが、今後さらに、世界遺産追加登録を念頭に置いた保存活用に携わっていく。

アピールポイント

本研究室では、建築作品の価値を、その歴史的、地理的、文化的背景に加え、建築家の思索(自然・人間・建築のあり方の思想)に軸足を置いた観点から評価できる。また文化財としての建築物の保存・活用のケーススタディとして海外の事例を研究している。国内においては、ライト設計による旧山邑家住宅(芦屋市)の世界遺産追加登録を念頭に置いた保存活用に携わっている。

応用分野

・公共建築・住宅建築・文化財建造物保存活用・文化財活用による地域活性化・自然と建築・社会と建築

